

ホームシアター システム

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



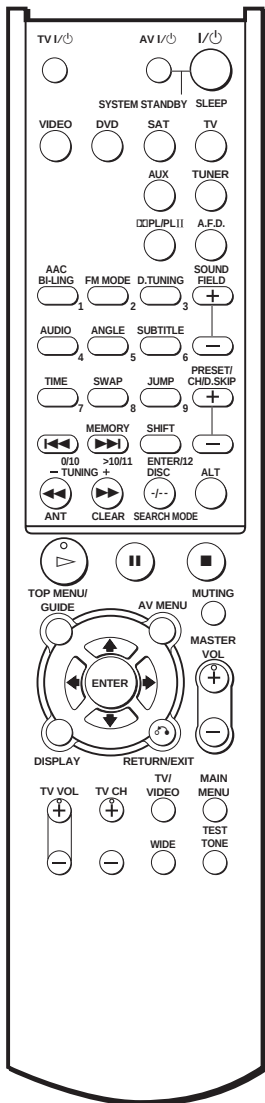
電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いが示されています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。**お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

HT-K31

この取扱説明書について

この取扱説明書では、主にリモコンのボタンを使った操作のしかたを説明しています。同じボタンなら本体でも操作できます。使うボタンの位置については「各部の名称と参照ページ」(34、35ページ)で確認してください。



本機はドルビー®デジタルデコーダーおよびドルビープロロジック(II)アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC(LC)デコーダー、DTS**デコーダーを搭載しています。

*ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

以下が米国AACパテントナンバーです。

Pat. 5,848,391; 5,291,557; 5,451,954; 5,400,433; 5,222,189; 5,357,594; 5,752,225; 5,394,473; 5,583,962; 5,274,740; 5,633,981; 5,297,236; 4,914,701; 5,235,671; 07/640,550; 5,579,430; 08/678,666; 98/03037; 97/02875; 97/02874; 98/03036; 5,227,788; 5,285,498; 5,481,614; 5,592,584; 5,781,888; 08/039,478; 08/211,547; 5,703,999; 08/557,046; 08/894,844

**Digital theater Systems,Incからの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDigital theater Systems,Incの商標です。

目次

接続と準備

準備 1：箱から出したら	4
準備 2：デジタル音声出力端子のある機器 を接続する	5
準備 3：ビデオ機器を接続する	7
準備 4：スピーカーを設置する	8
準備 5：スピーカーを接続する	9
準備 6：スタンドを取り付ける	11
準備 7：電源コードを接続する	12
設定 / 接続を確認する	12

つないだ機器の音を聞く

機器を選ぶ	14
表示窓に点灯する項目について	15

サラウンド効果を楽しむ

サウンドフィールドを選ぶ	16
--------------------	----

その他の操作 / 設定

バイリンガル（二重音声）の再生モードを 選ぶ	19
（AAC BILINGUAL）	
スリープタイマーを使う	19
リモコンで他機を操作する	20
リモコンの入力ボタンの設定を変える	22
スピーカー設定をする	23
サウンドフィールドの効果を調節する	24

その他

使用上のご注意	26
故障かな？と思ったら	27
保証書とアフターサービス	29
主な仕様	30
用語解説	31
各部の名前と参照ページ	34
索引	裏表紙

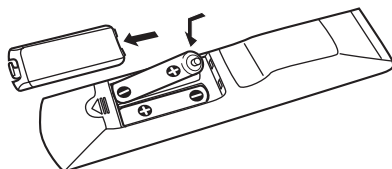
準備1：箱から出したら

次の付属品がそろっているかを確認してください。そろっていない場合は、お買い上げ店またはソニーサービス窓口へご連絡ください。

- リモートコマンダー（1）
- 単3形乾電池（NS）（2）
- サテライトスピーカー（4）
- センタースピーカー（1）
- サブウーファー（1）
- スピーカーコード（10 m）（2）
- スピーカーコード（5 m）（1）
- スピーカーコード（3.5 m）（3）
- 光デジタルコード（1）
- スピーカーパッド（20）
- スピーカー用シール（1）
- アンプスタンドと専用ネジ（各1）
- 安全のために（2）
- スピーカー設置ガイド（1）
- スタンドのご案内（1）
- ソニーサービス窓口・ご相談窓口のご案内（1）
- 保証書（1）

リモコンに電池を入れる

+ と-の向きを合わせて、単3形乾電池（付属）を2個入れます。



ちょっと一言

乾電池の寿命は約6か月です。残りが少なくなると、リモコンで操作できる距離が短くなります。これを目安にして、2個とも新しい乾電池に交換してください。

ご注意

- 高温多湿の場所に放置しないでください。
- 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
- 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。液漏れや破損のおそれがあります。

接続についてのご注意

- 電源を必ず切ってから接続してください。
- すべての接続が完了するまで、電源コードは接続しないでください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因となります。

準備2：デジタル音声出力端子のある機器を接続する

お手持ちのDVDプレーヤーやその他の機器（“プレイステーション 2”やCDプレーヤー、MDデッキ、デジタル衛星放送チューナーなど）にデジタル音声出力端子がある場合は、本機のデジタル音声入力端子に接続して、映画館のようなマルチチャンネルサラウンド音声をお楽しみいただけます。

DVDプレーヤーや“プレイステーション 2”の映像出力端子は、テレビの映像入力端子に接続します。

ご注意

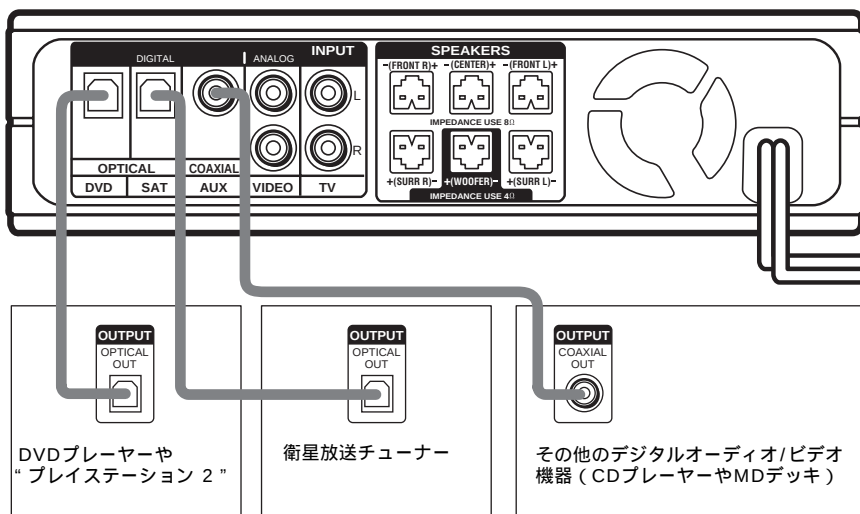
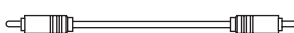
本機にビデオ信号を入力することはできません。ビデオ機器（ビデオデッキやテレビなど）を接続するときにはビデオ機器の映像出力端子をテレビの映像入力端子に接続してください。

必要な接続コード

光デジタルコード（付属）



同軸デジタルコード（別売り）



ちょっと一言

本機のOPTICAL端子/COAXIAL端子は、32 kHz、44.1 kHz、48 kHzのサンプリング周波数に対応していません。

ソニー製DVDプレーヤーまたは“プレイステーション 2”を使うには

前ページのようにDVDプレーヤーまたは“プレイステーション 2”を接続したときは、各機器側で次の設定を行ってください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

DVDプレーヤー

- 1** 設定画面で「オーディオ設定」を選択する
- 2** 「オーディオDRC」を「ワイドレンジ」にする
- 3** 「音声デジタル出力」を「入」にする
- 4** 「ドルビーデジタル」を「ドルビー入」にする
- 5** 「DTS」を「入」にする

“プレイステーション 2”

- 1** 設定画面で「オーディオ設定」を選択する
- 2** 「音声デジタル出力」を選択する
- 3** 「光デジタル出力」を「入」にする
- 4** 「ドルビーデジタル」を「入」にする
- 5** 「DTS」を「入」にする

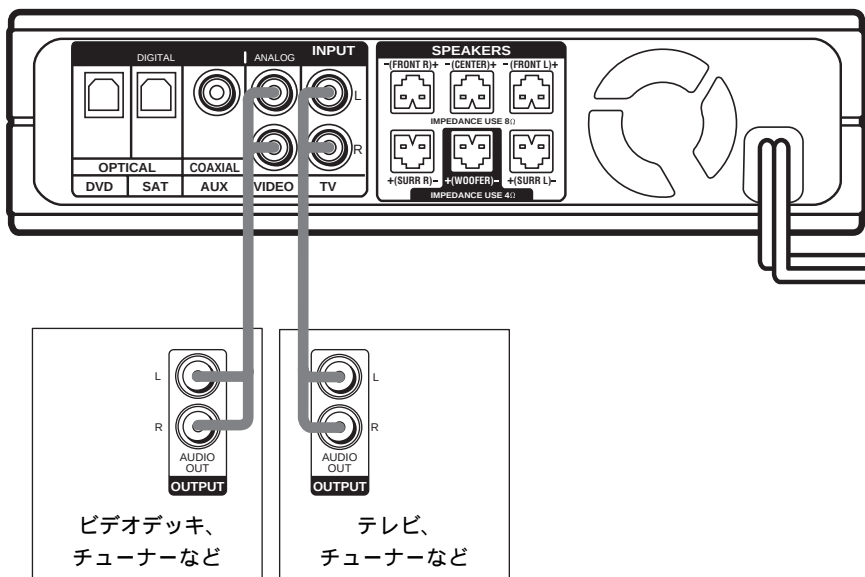
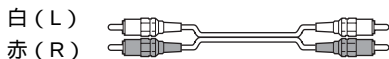
“プレイステーション 2”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

準備3：ビデオ機器を接続する

必要な接続コード

音声コード（別売り）

白（L）端子には白プラグを、赤（R）端子には赤プラグをつなぎます。つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音の原因になります。



ご注意

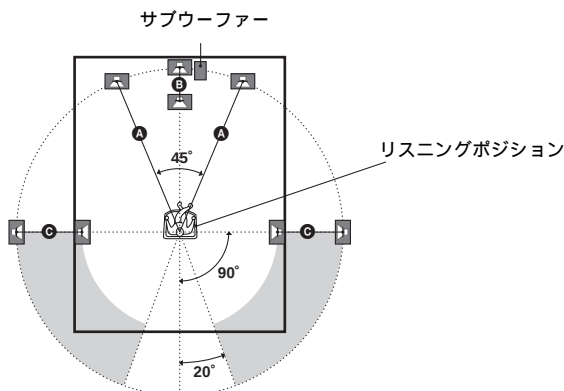
- 本機にビデオ信号を入力することはできません。ビデオ機器（ビデオデッキやテレビなど）を接続するときにはビデオ機器の映像出力端子をテレビの映像入力端子に接続してください。
- テレビの音声出力端子が1個しかない場合は、別売りのオーディオ接続コード（モノラル・ステレオ変換）でつないでください。テレビに音声出力端子がない場合は本機に接続できません。
- テレビの音はフロントスピーカー（L/R）とサブウーファーから出ます。リアスピーカーから音を出すときには、サウンドフィールドを選んでください。（16ページ）

準備4：スピーカーを設置する

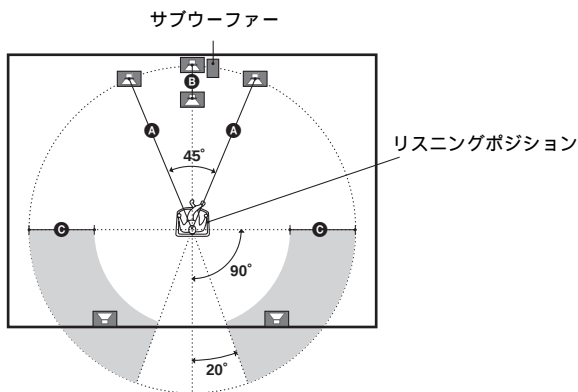
サラウンド効果を充分に楽しむためには、各スピーカーを下図のように設置してください。

- フロントスピーカーはリスニングポジションから1～7 mのところに設置してください（**A**）。
- センタースピーカーまでの距離は、フロントスピーカーと同じ距離（**A**）からリスニングポジションに1.6 m近づける範囲が（**B**）より良好なサラウンド効果を得られる距離です。
- サラウンドスピーカーまでの距離は、フロントスピーカーと同じ距離（**A**）からリスニングポジションに4.6 m近づける範囲が（**C**）より良好なサラウンド効果を得られる距離です。
- サブウーファーは、リスニングポジションからフロントスピーカーまでと等距離の床の上（右または左）に置いてください。

サラウンドスピーカーを横に設置した場合



サラウンドスピーカーを背後に設置した場合



ご注意

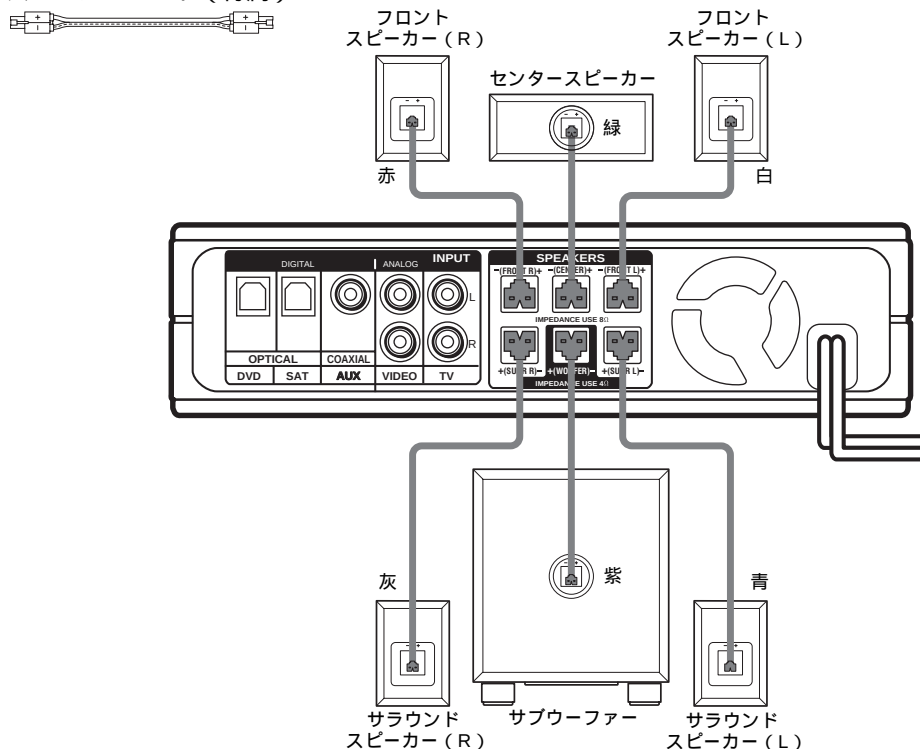
センタースピーカーとサラウンドスピーカーは、フロントスピーカーよりも離れた位置に置かないでください。

準備5：スピーカーを接続する

- 1 付属のスピーカー用シール（5色、「FRONT L」など）をサテライトスピーカーに貼る
- 2 スピーカーを設置する（8ページ）
- 3 サテライトスピーカーのシールの色と、スピーカープラグの色を合わせてスピーカーコードを接続する
 スピーカープラグと同じ色のスピーカー端子に接続します。スピーカープラグは両端同じ大きさです。本体・スピーカーどちらにでも差し込むことができます。向きを合わせてしっかり差し込んでください。

必要な接続コード

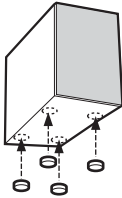
スピーカーコード（付属）



次のページへ続く

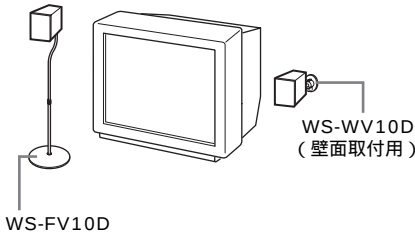
スピーカーを安定させる

聞いているときにスピーカーが振動したり移動したりしないように、付属のスピーカーパッドを、サテライトスピーカーの底面の四隅に貼ってください。ただし、スピーカースタンド（別売り）を使う場合は必要ありません。



スピーカースタンド（別売り）を使う

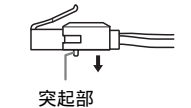
別売りのスピーカースタンド（WS-FV10D、WS-WV10D）を使うと、簡単に希望の場所にスピーカーを設置できます。



スピーカーコードを変更するには

コードの長さや太さを変えるとき、スピーカーコードを交換することができます。

- 1 スピーカープラグを平らなところに押しつける。まん中の突起部が下側になるようにします。



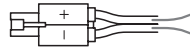
- 2 上から押したままスピーカープラグからスピーカーコードを引き抜く。



- 3 使いたいスピーカーコードの先端の被覆を約10mmはがし、芯線をよくねじる。

プラグを上から押したまま、後方からスピーカーコードを差し込む。

極性に合わせて+は+ どうし、- は - どうしで正しく差し込んでください。

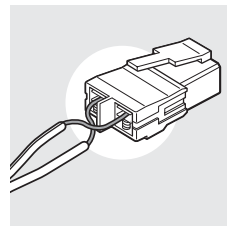
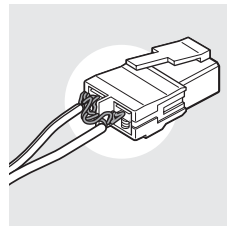


スピーカーコードを軽くひっぱり、抜けないことを確認する。

スピーカーコードを交換するときのご注意

- 細いスピーカーコードを使うときは、スピーカープラグにしっかりと差し込まないとスピーカープラグから抜ける可能性があります。
- すべてのスピーカーに同じ太さのスピーカーコードをつないでください。
- スピーカーコードをスピーカープラグに差し込む前に、かならずすべてのスピーカーコードの先端をねじってから、スピーカープラグの後部からしっかりと差し込んでください。差し込みが不十分だと、スピーカープラグから抜け落ちることがあります。
- 使用できるスピーカーコードの太さはAWG24（細め）からAWG18（太め）までです（外径：直径1.5～3mm、芯線：直径0.5～1.1mm）。他の太さのスピーカーコードは、使用できません。使用するコードの太さを間違えると、ステレオ効果やサラウンド効果が得られないことがあります。
- スピーカーコードをショートさせると本機およびスピーカーを損傷したり、トラブルが発生することがあります。他のコードの先端と接触しないように気をつけてください。

スピーカーコード接続の悪い例

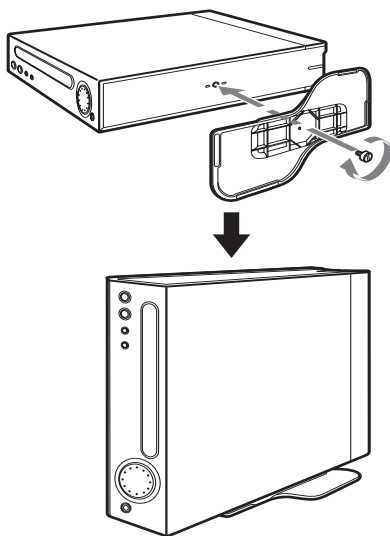


準備6：スタンドを取り付ける

本体は縦向きに置いても、横向きに置いても使うことができます。縦置きで使うときは必ず付属のスタンドを取り付けてください。

スタンドを取り付けて縦置きにする

本体側面の穴とスタンドの穴を合わせ、付属のネジでとめる。



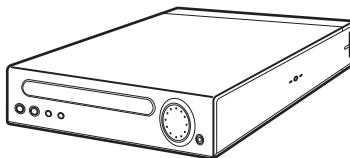
ご注意

- 本体を縦置きで使うときは、必ずスタンドを取り付けてください。
 - スタンドを取り付けないと、本体が転倒することがあります。
 - 本体の側面にある通風孔をふさがないようにしてください。
- 本体を縦置きにして使うときのみスタンドを取り付けてください。横置きにするときは、スタンドを取り外してください。
- 本体を移動するときは、本体を持ってください。スタンドを持つと、本体が落下するなどして、破損することがあります。

- 乳幼児がネジを誤飲しないよう、ネジは乳幼児の手の届かない所に置いてください。
- 本機を設置するときは、壁などから10cm以上はなしてください。

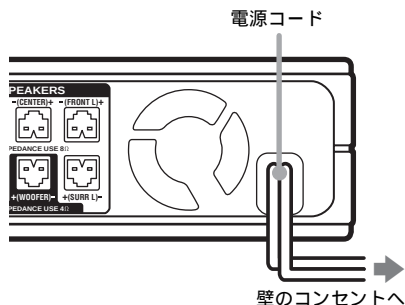
横置きにする

平らなところに置いてください。



準備7：電源コードを接続する

すべての機器を接続した後、本機の電源コードを壁のコンセントに接続します。

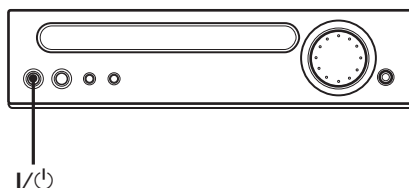


設定/接続を確認する

本機を初期設定状態にする

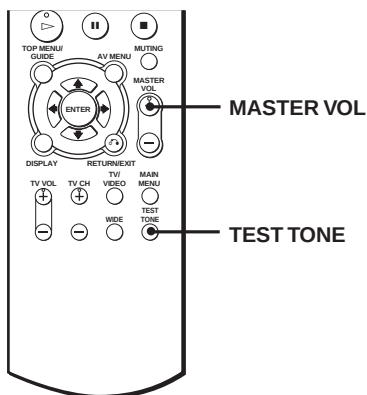
本機を初めてお使いになるときは、必ず以下の手順で本機を初期設定状態にしてください。

また、本機をお使いになった後、設定した内容などをお買い上げ時の状態に戻したいときも、以下の手順を行ってください。



- 1 I/O (電源スイッチ) を押して、本体の電源を切る
- 2 「INITIAL」が表示されるまで I/O (電源スイッチ) を押し続けたままにする (約5秒間)
現在選ばれている入力が表示されます。
下記がお買い上げ時の状態に戻ります。
 - SET UP、LEVEL、DRCの各メニューで設定した内容
 - サウンドフィールドのパラメーター
 - 入力ごとに記憶したサウンドフィールドまた、音量が最小 (MIN) になります。

すべてのスピーカーから音が出ているか確認する



- 1 MASTER VOL + を押す
(ボリューム値のめやす：25～35程度)

- 2 TEST TONEを押す
各スピーカーから順番にテストトーンが出力されます。
フロント（左）→ センター → フロント（右）→ サラウンド（右）→ サラウンド（左）→ サブウーファー
テストトーンを出力中、何も聞こえなかったり、本機の表示窓に表示されているスピーカー名と異なるスピーカーからテストトーンが出たときは、スピーカーコードがショートしているか、誤配線の恐れがあります。このときはもう一度スピーカーコードの接続を確認してください。

- 3 TEST TONEをもう一度押して、テストトーンを消す

機器を選ぶ

1 入力ボタンを押す

本体で選ぶときはINPUT SELECTORをくり返し押します。

見たい、聞きたい機器	押すボタン
DVDプレーヤーまたは“プレイステーション 2”	DVD
衛星放送チューナー *	SAT
ビデオデッキ	VIDEO
テレビ	TV
その他のオーディオ/ ビデオ機器 (CDプレーヤー、MDプレーヤーなど)	AUX

* BSデジタルチューナーはSAT端子につないでいても、必ずリモコンのファンクションボタンの設定を変更し、9に割り当ててください (22ページ)。設定を変更しないと、本機のリモコンでBSデジタルチューナーを操作できません。

2 機器の電源を入れて、再生する

ビデオデッキやDVDプレーヤーなどのテレビに接続する機器を選んだときは、テレビの電源を入れて、入力を切り換えてください。

3 MASTER VOL + / - を押して、音量を調節する

本体で調節するときは、MASTER VOLUMEを回します。

音を一時的に消したいときはMUTINGボタンを押す。

DVDプレーヤー (別売り) でDVDを再生する

DVDプレーヤーや“プレイステーション 2”を接続したときは、DVDをお楽しみいただけます。

1 DVDを押す

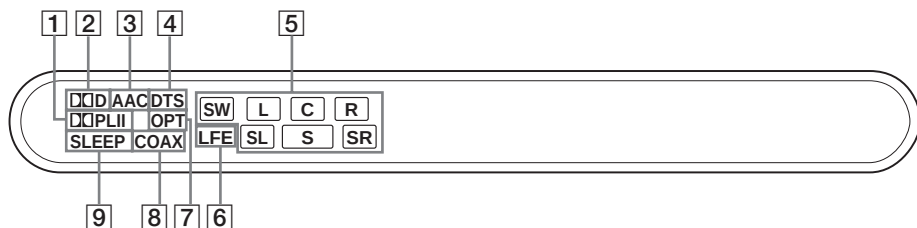
2 テレビの入力を選ぶ

詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 DVDプレーヤーまたは“プレイステーション 2”にDVDを入れる

4 DVDを再生する

表示窓に点灯する項目について



- 1 **DDPL (II)** : 2チャンネル信号をプロロジック (II) 処理しているときに点灯します。
- 2 **DDD** : ドルビーデジタル記録された信号をデコードしているとき点灯します。
- 3 **AAC** : MPEG-2 AAC記録された信号をデコードしているとき点灯します。
- 4 **DTS** : DTS記録された信号をデコードしているとき点灯します。
- 5 **再生チャンネル表示** : 現在出力しているチャンネルを表示します。
L : フロント左、**R** : フロント右、**C** : センター、**SL** : サラウンド左、**SR** : サラウンド右、**S** : サラウンド (モノラル/プロロジック処理されたサラウンド成分)
SW : サブウーファー
 文字の回りの枠が点灯し、再生に使われているスピーカーを表示します。
 例：
 記録形式 (フロント/サラウンド) : 3/2
 サウンドフィールド : A.F.D. AUTO



- 6 **LFE** : 再生中のディスクにLFE (低音増強) のチャンネルが存在しているとき、または実際にLFE信号の音が再生されているときに点灯します。
- 7 **OPT** : INPUT SELECTORでDVDまたはSATが選ばれているときに点灯します。
- 8 **COAX** : INPUT SELECTORでAUXが選ばれているときに点灯します。
- 9 **SLEEP** : スリープタイマーが働いているときに点灯します。

サラウンド効果を楽しむ

サウンドフィールド Dを選ぶ

本機にプログラムされているサウンドフィールド（音場効果）を選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しむことができます。ご自分の部屋で、映画館やコンサートホールの臨場感を再現できます。

SOUND FIELD + / - をくり返し 押して、お好みのサウンドフィールド Dを選ぶ

表示窓に、選んだサウンドフィールドが表示されます。

サウンドフィールド	表示
A.F.D. AUTO	A.F.D. AUTO
DOLBY Pro Logic	DOLBY PL
DOLBY PLII MOVIE	PLII MOV
DOLBY PLII MUSIC	PLII MUS
CINEMA STUDIO EX A DCS	C.ST.EX. A
CINEMA STUDIO EX B DCS	C.ST.EX. B
CINEMA STUDIO EX C DCS	C.ST.EX. C
HALL	HALL
JAZZ CLUB	JAZZ
LIVE CONCERT	CONCERT
GAME	GAME
MULTI STEREO	MULTI-ST.

ヘッドホン使用時

サウンドフィールド	表示
2CH STEREO	2CH-ST.
HEADPHONE THEATER	H.THEATER

DCS（デジタルシネマサウンド）について

DCSマークの付いたサウンドフィールドは、DCS技術を利用しています。ソニーは、ソニー・ピクチャーズエンターテインメントとの協力によりダビングスタジオの音場を測定し、そのデータとソニー独自のDSP（Digital Signal Processor：デジタル信号処理）技術との組み合わせによりデジタルシネマサウンドを開発しました。デジタルシネマサウンドは、映画製作者が意図した理想的なシアター音場効果をホームシアターで再現します。

CINEMA STUDIO（シネマ スタジオ）EXモードで映画 を楽しむ

シネマスタジオEXは、映画のDVDソフトなどを再生して、マルチチャンネルのサラウンド効果を楽しむのに適したサウンドフィールドです。ソニー・ピクチャーズエンターテインメントのダビングスタジオの音響特性を、ご自分の部屋で再現できます。

3つのシネマスタジオEXモードがあります。

■ CINEMA STUDIO EX A **DCS**

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの「Cary Grant Theater」スタジオの音響特性を再現します。標準的なモードで、あらゆる映画に適しています。

■ CINEMA STUDIO EX B **DCS**

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの「Kim Novak Theater」スタジオの音響特性を再現します。このモードは音場効果が豊富に使われているSF映画やアクション映画に適しています。

■ CINEMA STUDIO EX C **DCS**

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントのスコアリング・ステージの音響特性を再現します。このモードはミュージカルや、オーケストラによるサウンドトラックが特長的な映画などに適しています。

シネマスタジオEXモードについて

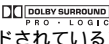
シネマスタジオEXの各モードは、次の3つの要素から成り立っています。

- ・「Virtual Multi Dimension」(バーチャルマルチディメンジョン)
1組の実在するサラウンドスピーカーから、5組の仮想サラウンドスピーカーを生成します。
- ・「Screen Depth Matching」(スクリーンデプスマッチング)
映画館のように、音がスクリーンの中から出てくるような感覚を作り出します。
- ・「Cinema Studio Reverberation」(シネマスタジオリバーブレーション)
映画館独特の残響を再現します。

シネマスタジオEXは、これら3要素を同時に動作させる統合モードです。

ちょっと一言

DVDソフトなどのエンコード方式は、パッケージに付いているマークで確認できます。

-  : ドルビーデジタルでエンコードされているソフト
-  : ドルビーサラウンドでエンコードされているソフト
-  : DTSデジタルサラウンドでエンコードされているソフト

ご注意

MPEG-2 AAC信号が入力されているときは、サウンドフィールドの設定は無効になります。

ドルビープロロジック(II)を楽しむ

2チャンネル音声入力をマルチチャンネルで聞くためのデコーディングモードを選ぶ機能です。2チャンネルの音声を、ドルビープロロジックでは4チャンネル、ドルビープロロジック(II)では5.1チャンネルで再生できます。

リモコンの□□PL/PLIIを押すと直接選択できます。

DOLBY PL→PLII MOV→PLII MUSと切り換わります。

■ DOLBY Pro Logic

ドルビープロロジック処理を行います。2チャンネルで記録されている音を4チャンネルにデコードして再生します。

■ DOLBY PLII MOVIE

ドルビープロロジックIIのムービーモード処理を行います。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹替版や古い映画のビデオなども5.1チャンネルで再生できます。

■ DOLBY PLII MUSIC

ドルビープロロジックIIのミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ録音された音声の再生に適しています。

ご注意

ドルビープロロジック、ドルビープロロジックIIは、DTS、MPEG-2 AAC信号のときは働きません。

入力音声を自動的に判別する

■ A.F.D. AUTO

A.F.D. (Auto Format Direct) 機能は、入力された音声信号(ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC 2チャンネルステレオ音声など)を自動的に判別し、適切な処理をします。録音またはエンコードされたままの音を、サラウンド効果を加えずに再現します。リモコンのA.F.Dを押すと、直接選択できます。

その他のサウンドフィールド

■ HALL

長方形のコンサートホールの音響を再現します。

■ JAZZ CLUB

ジャズクラブの音響を再現します。

■ LIVE CONCERT

300席あるライブハウスの音響を再現します。

■ GAME

ビデオゲームのソフトで、迫力のある音声が得られます。

■ MULTI STEREO

フロントスピーカー右/左と同じ音声信号をサラウンドスピーカー右/左にも送ります。センタースピーカー、サブウーファーからは音が出ません。

ヘッドホンを接続したときは以下のサウンドフィールドのみ選べます。

■ 2CH STEREO

2チャンネル（ステレオ）で音を出します。標準的な2チャンネルステレオ音声は、サウンドフィールドの回路を通さずに、マルチチャンネル音声は2チャンネルにダウンミックスして再生します。

■ HEADPHONE THEATER **DCS**

映画館にいるような雰囲気ヘッドホンで再現します。

ちょっと一言

選んでいるサウンドフィールドは、ヘッドホンを使用すると、自動的に2CH STEREOまたはHEADPHONE THEATERに切り換わります。

サウンド効果を解除する

A.F.D. AUTOまたは、2CH STEREO（ヘッドホン接続時）を選べると、解除されます。

小さい音を聞こえやすくする （DOLBY DRC）

接続しているDVDの音量を下げて聞くときに、ダイナミックレンジを圧縮し、小さい音までよく聞こえるようにします。Dolby DRC*（オーディオDRC）に対応のDVDディスクを再生しているときのみ効果があります。お買い上げ時の設定は「OFF」です。

* Dolby DRCは、Dolby Dynamic Range Compressorの略です。

2 ◀/▶を押して、「STD」を選ぶ

「STD」を選ぶと、レコーディングエンジニアが意図するダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。

DOLBY DRCを切るには、「OFF」を選びます。

ちょっと一言

ダイナミックレンジの圧縮では、ダイナミックレンジをドルビーデジタルに記録されているダイナミックレンジ情報に基づいて圧縮します。アナログのリミッターとは異なり、機器側が圧縮ポイントをあらかじめ予測しているため、自然な圧縮になります。

ご注意

ダイナミックレンジの圧縮はドルビーデジタルの音声にのみ働きます。

1 MAIN MENUをくり返し押して、「DRC」を選ぶ

バイリンガル（二重音声）の再生モードを選ぶ

（AAC BILINGUAL）

BSデジタル放送のMPEG-2 AAC二重音声を聞くときの、再生モードを選ぶことができます。

AAC BI-LINGを押す

押すたびに、再生モードは次のように切り換わります。初期設定はMAINです。

再生モード	再生する音声
MAIN	主音声のみ
SUB	副音声のみ
M + S	主音声と副音声が合成された 音声を再生
M/S	左スピーカーから主音声、右 スピーカーから副音声を同時 に再生

ご注意

BSデジタルチューナー側の設定で、デジタル出力を「AAC」または「オート」に切り換えてください。

スリープタイマーを使う

指定した時間が経つと、本体の電源を自動的にオフにすることができます。

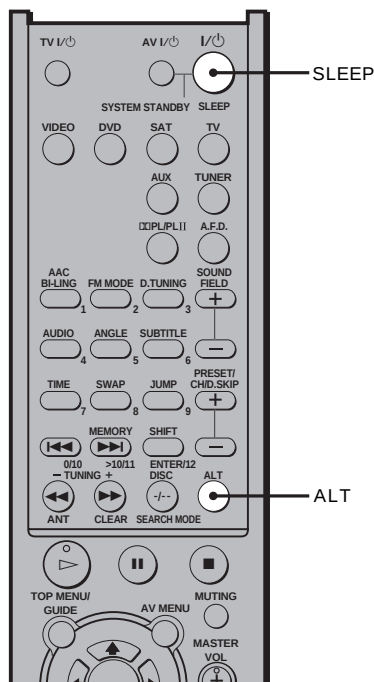
ALTを押した後、SLEEPを押す
SLEEPを押すごとに、時間表示が次のように切り換わります。

2-00-00 → 1-30-00 → 1-00-00 →
0-30-00 → OFF

スリープタイマーが働いているときは、
SLEEP表示が点灯します。

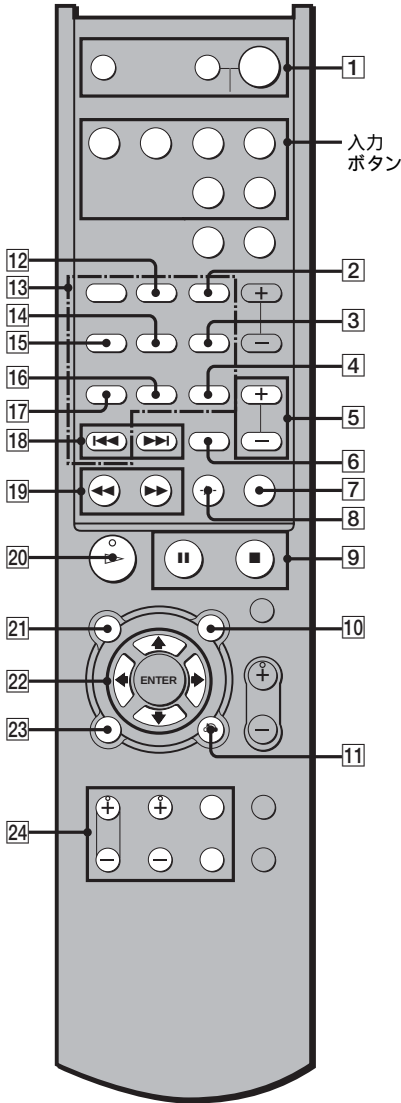
ちょっと一言

本体の電源がオフするまでの残り時間を確認するには、ALTを押した後、SLEEPを押します。表示窓に残り時間が表示されます。



リモコンで他機を操作する

リモコンを使って、他のソニー製機器を操作することができます。



リモコンのボタン	操作できる機器	機能
ALT [7]	リモコン	オレンジ色で書かれたボタンの機能を使うときに押す
ANGLE [14]	DVDプレーヤー	アングルを選ぶ
ANT [19]	ビデオデッキ	ビデオのアンテナ端子からの出力信号を選ぶ (テレビまたはビデオ信号)
AUDIO [15]	テレビ/ビデオデッキ/DVDプレーヤー	音声を選ぶ (マルチ、バイリンガル)
AV MENU [10]	ビデオデッキ/衛星放送チューナー / DVDプレーヤー	メニューを表示する
AV I/O [1]	テレビ/ビデオデッキ/ CDプレーヤー / DVDプレーヤー	オーディオ/ビデオ機器の電源をオン/オフする
CLEAR [19]	DVDプレーヤー	数字ボタンを使って入力した数字をクリアする、または、ぶつうの再生に戻る
D.TUNING [2]	チューナー	放送局を手動受信モードにする
DISC [8]	CDプレーヤー	ディスクを直接選ぶ (チェンジャーのみ)
DISPLAY [23]	テレビ/ビデオデッキ / DVDプレーヤー	テレビ画面に出る表示を選ぶ
ENTER/12 (ALTボタンを押してから) [6]	テレビ/ビデオデッキ/衛星放送チューナー	数字ボタンでチャンネル、ディスク、トラックを選んだあと、押して確定する
	テレビ	12チャンネルを選ぶ
FM MODE [12]	チューナー	FMモード (モノラル/ステレオ) を選ぶ
JUMP [4]	テレビ	前のチャンネルと今のチャンネルを切り換える
MEMORY [18]	チューナー	放送局を登録する

リモコンの ボタン	操作できる機器	機能
PRESET/ CH/D.SKIP +/- [5]	チューナー	登録した放送局を探す / 選ぶ
	テレビ/ビデオ デッキ/衛星放 送チューナー	プリセットチャンネ ルを選ぶ
	CDプレーヤー /DVDプレー ヤー	ディスクをスキップ する (チェンジャー のみ)
RETURN ⏮/EXIT [11]	DVDプレー ヤー	前のメニューに戻る
	衛星放送 チューナー	メニュー設定をやめ る
SEARCH MODE [8]	DVDプレー ヤー	サーチモードを選ぶ サーチする単位 (ト ラック、インデック スなど) を選ぶ
SHIFT [6]	チューナー	放送局を登録する ときや、登録した放 送局を選ぶときに、 くり返し押してメモ リーページを選ぶ
SUBTITLE [3]	DVDプレー ヤー	字幕を選ぶ
SWAP* [16]	テレビ	大画面と小画面を入 れ替える
SYSTEM STANDBY (I/⏻を押し ながらAV I/⏻を押す) [1]	本機/衛星放送 チューナー/テ レビ/ビデオ デッキ/CDプ レーヤー/ DVDプレー ヤー	本機とソニー製オー ディオ/ビデオ機器 の電源を切る
TIME [17]	CDプレーヤー /DVDプレー ヤー	時間情報を見る
TOP MENU/ GUIDE [21]	DVDプレー ヤー	DVDのタイトルを表 示する
	衛星放送 チューナー	ガイド画面を表示す る
TUNING + /- [19]	チューナー	放送局を受信する
TV/VIDEO [24]	テレビ	入力信号を選ぶ (テ レビまたはビデオ入 力)
TV CH +/- [24]	テレビ	テレビのチャンネル を選ぶ
TV VOL + /- [24]	テレビ	テレビの音量を調節 する

リモコンの ボタン	操作できる機器	機能
TV I/⏻ [1]	テレビ	テレビの電源をオン /オフする
WIDE [24]	テレビ	画面の大きさを切り 換える
▷ [20]	ビデオデッキ/ CDプレーヤー /DVDプレー ヤー	再生する
⏮ [9]	ビデオデッキ/ CDプレーヤー /DVDプレー ヤー	再生または録音を一 時停止する (録音一 時停止中に押すと録 音を始める)
■ [9]	ビデオデッキ/ CDプレーヤー /DVDプレー ヤー	停止する
◀◀/▶▶ [18]	ビデオデッキ/ CDプレーヤー /DVDプレー ヤー	トラックを戻す/進 める
◀◀/▶▶ [19]	CDプレーヤー /DVDプレー ヤー	トラックを (順また は逆方向に) サーチ する
	ビデオデッキ	早送りまたは巻き戻 しする
-/-- [8]	テレビ	チャンネル入力モー ドを選ぶ (1文字ま たは2文字)
⏮/⏭/⏮/⏭ [22]	ビデオデッキ/ 衛星放送 チューナー/ DVDプレー ヤー	メニュー項目を選 び、真ん中を押し込 んで確定する
1-9、0/10 (ALTボタ ンを押して から) [13]	チューナー	MEMORYモードの 時、D.TUNING、 SHIFTボタンととも に使う数字を入力 する
	CDプレーヤー	トラック番号を選ぶ 0/10を押すと10が 入力されます
	テレビ/ビデオ デッキ/衛星放 送チューナー	チャンネル番号を選 ぶ
>10/11 (ALTボタ ンを押して から) [18]	CDプレーヤー	10以上のトラック番 号を選ぶ
	テレビ	11チャンネルを選ぶ

* ピクチャーインピクチャー機能がついたソニー製テレビのみ

ご注意

- 機能の説明は、例としてあげています。機器によっては、上記の操作ができなかったり、説明されている通りに動かない場合があります。
- オレンジ色で書かれたボタンの機能を使うときは、先にALTを押してください。
- 本機の操作するために $\square/\square/\square/\square$ を使うときは、先にMAIN MENUを押してください。他機の操作するために使うときは、先に入力ボタンを押し、AV MENUまたはTOP MENU/GUIDEを押してください。

リモコンの入力ボタンの設定を変える

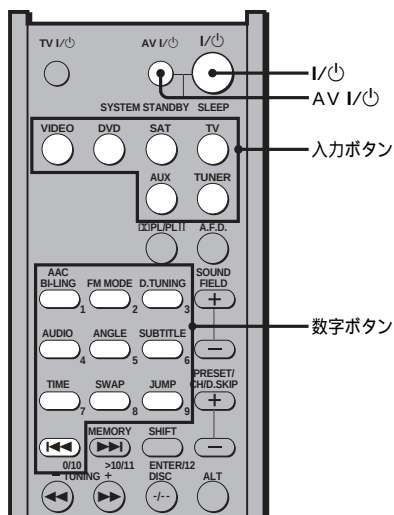
リモコンの入力ボタンは、お買い上げ時の設定では以下の機器に割り当てられています。

入力ボタン 設定	
VIDEO	ビデオデッキ (VTRモード3*)
DVD	DVDプレーヤー
SAT	デジタルチューナー
TV	テレビ
AUX	CDプレーヤー /MDデッキ
TUNER	チューナー **

* ソニー製VHSビデオデッキ向け。

** 本体には搭載されていません。

実際にお使いの機器に合わせて、付属のリモコンの入力ボタンの設定を変えることができます。例えば、CDプレーヤーを持っていて、DVDプレーヤーを持っていない場合には、DVDボタンにCDプレーヤーを割り当てることができます。



設定を変えたい入力ボタン（例：DVD）を押したまま、その入力ボタンに割り当てたい機器の数字ボタンを押す（例：1-CDプレーヤー）

機器を選ぶボタンは以下のように設定されています。

操作する機器	押すボタン
CDプレーヤー	1
ビデオデッキ（VTRモード2*）	2
ビデオデッキ（VTRモード3*）	3
DVDプレーヤー	4
テレビ	5
デジタルCSチューナー	8
BSデジタルチューナー **	9
チューナー	0/10

* ソニー製ビデオデッキはVTR2または3の設定で使用できます。これらはそれぞれ8ミリ、VHSに対応します。

**BSデジタルチューナーは、SAT端子につないでも、必ず9に割り当ててください。

リモコンにFM-AMチューナーを割り当てるには

FM-AMチューナーをつなぐ場合、以下の手順で接続・設定すると、本機のリモコンのTUNERボタンに割り当てることができます。

- 1 チューナーを本体のTVまたはVIDEO入力端子につなぐ。
- 2 リモコン（本機付属）のTVまたはVIDEOボタンを押す。
- 3 リモコンのTUNERボタンを押したまま、0/10ボタンを押す。

すべての入力ボタンの設定をお買い上げ時の状態に戻すには

I/⏮、AV I/⏮、MASTER VOL - を同時に押す。

ALTボタンが3回点滅し、お買い上げ時の状態に戻ります。

スピーカー設定をする

SET UPメニューを使って、スピーカーの設定をします。

1 MAIN MENUをくり返し押しして、SET UPメニューを選ぶ

2 左/右を押して、調節したいパラメーターを選ぶ

3 上/下を押して、希望する設定を選ぶ

4 操作2と3をくり返して、設定項目をすべて設定する

スピーカーの設定項目

■ フロントスピーカーまでの距離 （ DIST.）

お買い上げ時の設定：3.0 m

リスニングポジションから左右のフロントスピーカーまでの距離（8ページ㊦）を設定します。1.0～7.0 mの範囲で、0.2 m単位で設定できます。

左右のフロントスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

■ センタースピーカーまでの距離

( DIST.)

お買い上げ時の設定：3.0 m

リスニングポジションからセンタースピーカーまでの距離を設定します。フロントスピーカーと同じ距離（8ページ**A**）からリスニングポジションに1.6 m近づける範囲が（8ページ**B**）より良好なサラウンド効果を得られる距離です。

■ サラウンドスピーカーまでの距離

(  DIST.)

お買い上げ時の設定：3.0 m

リスニングポジションから左右のサラウンドスピーカーまでの距離を設定します。フロントスピーカーと同じ距離（8ページ**A**）からリスニングポジションに4.6 m近づける範囲が（8ページ**C**）より良好なサラウンド効果を得られる距離です。

左右のサラウンドスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

サウンドフィールドの効果を調節する

レベルパラメーターを使って、お好みに応じてサウンドフィールドの効果を調節できます。

サウンドフィールドの効果を調節する前にスピーカーの位置を決め、「準備4：スピーカーを設置する」（8ページ）と「すべてのスピーカーから音が出ているか確認する」（13ページ）の手順を行ってください。

スピーカーのレベルやバランスを調節する

各スピーカーのバランスやレベルを調節できます。リスニングポジションに座り、テストトーンが同じ大きさに聞こえるように調節します。調節した内容は、すべてのサウンドフィールドに反映されます。

- 1** MASTER VOL +を押す
(ボリューム値のめやす：20～30程度)
- 2** TEST TONEを押す
各スピーカーから順番にテストトーンが出力されます。
フロント（左）→ センター → フロント（右）→ サラウンド（右）→ サラウンド（左）→ サブウーファー
- 3** MAIN MENUをくり返し押して、LEVELメニューを選ぶ
- 4** /を押して、調節したいパラメーターを選ぶ

5 ⇄/⇄を押して、希望する設定を選ぶ

ちょっと一言

- さらに細かい調節をするには、マルチチャンネルのサラウンド効果がエンコードされている音源（DVDなど）を再生し、音を聞きながらレベルやバランスを調節します。
- 本機は中心周波数800 Hzのテストトーンを採用しています。
- 全体の音量調節をするには、リモコンの MASTER VOL + / -、または本体の MASTER VOLUMEで調節します。

ご注意

- 調節しているあいだ、フロントバランス、センターレベル、サラウンドレベル、サブウーファーレベルは表示窓に表示されます。
- より良い音質でお楽しみいただくために、サブウーファーの音量は上げすぎないでください。

LEVELメニューの設定項目

■ フロントスピーカーバランス (BAL.)

お買い上げ時の設定 : (BALANCE)

フロントスピーカーの左右のバランスを調節します。L (+1 ~ +6)、R (+1 ~ +6) の範囲内で1段階ごとに調節できます。

■ センタースピーカーレベル (CTR)

お買い上げ時の設定 : 0 dB

- 6 dB ~ + 6 dBの範囲で、1 dB単位で調節できます。

■ サラウンドスピーカー (左) レベル (SURL.)

お買い上げ時の設定 : 0 dB

- 6 dB ~ + 6 dBの範囲で、1 dB単位で調節できます。

■ サラウンドスピーカー (右) レベル (SURR.)

お買い上げ時の設定 : 0 dB

- 6 dB ~ + 6 dBの範囲で、1 dB単位で調節できます。

■ サブウーファーレベル (S.W.)

お買い上げ時の設定 : 0 dB

- 6 dB ~ + 6 dBの範囲で、1dB単位で調節できます。

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキから近い所。

(テレビやビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。)

- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている場所に、サブウーファーおよびスピーカースタンド(別売り)などを置くときは、変色、染みなどが残ることがあります。
- 本体の側面、後面には通風孔があります。
 - 縦置き使用をするとき、必ずスタンドを使用し、通気をよくしてください。
 - 通風孔の周りには、10cm以上の空間を確保してください。

使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。

特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。

また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しの良い所でお使いください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。



窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

故障かな？と思ったら

症状	原因と対応のしかた
ドルビーデジタルやDTSのマルチチャンネルの音声は再生されない	→ 再生中のDVDなどが、ドルビーデジタルやDTSで録音されているか確認する。 → DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子に接続しているときは、接続した機器の音声の出力（デジタル音声出力の）設定を確認する（5ページ）。 → DVDプレーヤー側で、音声を正しく選んでいるか確認する（DVDメニューの音声設定を確認する）
音が出ない、ほとんど聞こえない	→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → 正しい機器が選ばれているか確認する。 → MUTINGボタンをおして、ミュート機能を解除する。 → 保護回路が働いている。本機の電源を切り、スピーカーの接続にショートがないか確認して、もう1度電源を入れる。
左右の音のバランスが悪い、または逆転している	→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → LEVELメニューにあるバランスパラメーターを調節する。
ハム音またはノイズがひどい	→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3 m離れているか確認する。 → テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。 → プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。
センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない	→ DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子に接続しているときは、接続した機器の音声の出力（デジタル音声出力の）設定を確認する（5ページ）。 → サウンドフィールドが働いているか確認する（SOUND FIELD + / - ボタンを押す）。 → シネマスタジオEXモードを選ぶ（16ページ）。 → スピーカーの音量を調節する（24ページ）。
サラウンド効果が得られない	→ サウンドフィールドが働いているか確認する（SOUND FIELD + / - ボタンを押す）。 → A.F.D. AUTOまたは2CHステレオ（ヘッドホン使用時）以外のサウンドフィールドを選ぶ。
リモコンで操作できない	→ 本体のリモコン受光部に向けて操作する。 → リモコンと本体の間にある障害物を取り除く。 → リモコンの乾電池を交換する。 → リモコンで正しく入力を選んだか確認する。 → BSデジタルチューナーはSAT端子につないでいても、必ずリモコンの入力ボタンの設定で9に割り当てる（23ページ）。

表示窓に下記が表示されるときは

表示	原因と対応のしかた
「PROTECT」	→ 障害物によりファンモーターが止まっているときは、障害物を取り除く。

本機のメモリーをクリアするための参照ページ

消去するメモリー	参照ページ
全てのメモリー	12ページ

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ
お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について
当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について
この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：HT-K31
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

TA-K31

実用最大出力

ステレオモード： 22W + 22 W
(8Ω、JEITA)

サラウンドモード：

フロント部*： 22 W/チャンネル
センター部*： 22 W
サラウンド部*： 22 W/チャンネル
(8Ω、JEITA)

サブウーファー部：40 W
(4Ω、JEITA)

*サウンドフィールドによっては音が出ません

周波数特性 20 Hz ~ 20kHz
(+0.5/-2 dB)

入力 (デジタル)

AUX (同軸) インピーダンス：75 Ω
S/N比：86 dB
(A、20 kHz LPF)

DVD、SAT (光) S/N比：86 dB
(A、20 kHz LPF)

入力 (アナログ)

TV、VIDEO 入力感度：1.0 V
インピーダンス：50 kΩ
S/N比：80 dB
(A、20 kHz LPF)

電源、その他

電源 AC 100 V、50/60 Hz
消費電力 68 W
スタンバイ時：0.9 W

最大外形寸法 (幅/高さ/奥行き)
215 × 55 × 297 mm
(スタンド取り付け時：
120 × 224 × 297 mm)

質量 約 2.5 kg
(スタンド取り付け時：
約 2.6 kg)

スピーカー部

SS-MSP31

(フロントおよびサラウンドスピーカー)

形式 フルレンジ、バスレフ型、
防磁型

使用スピーカー 7 cm、コーン型
定型インピーダンス 8 Ω
最大入力 (JEITA) 44 W
出力音圧レベル 84 dB (1 W、1 m)

実効周波数帯域 150 Hz ~ 20,000 Hz
最大外形寸法 (幅/高さ/奥行き)
約 90 × 128 × 133 mm
質量 約 850 g

SS-CNP31

(センタースピーカー)

形式 フルレンジ、バスレフ型、
防磁型

使用スピーカー 5.7 cm、コーン型 (2個)
定型インピーダンス 8 Ω
最大入力 (JEITA) 44 W

出力音圧レベル 84 dB (1 W、1 m)
実効周波数帯域 150 Hz ~ 20,000 Hz
最大外形寸法 (幅/高さ/奥行き)
約 201 × 82 × 133 mm
質量 約 1200 g

SS-WMSP31

(サブウーファー)

形式 アコースティック
ローテッドバスレフ型、
防磁型

使用スピーカー 16 cm、コーン型
定型インピーダンス 4 Ω
最大入力 (JEITA) 70 W
出力音圧レベル 83 dB (1 W、1 m)
実効周波数帯域 45 Hz ~ 5,000 Hz
最大外形寸法 (幅/高さ/奥行き)
約 240 × 287 × 262 mm
質量 約 4.5 kg

付属品 (4ページをご覧ください)
別売りアクセサリ オーディオ接続コード (モノラル-ステレオ変換)
RK-C210

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。



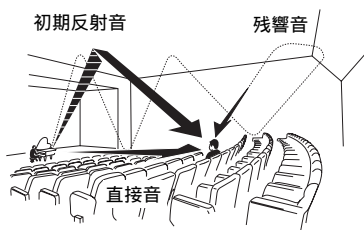
- 待機時消費電力0.9W以下
- 主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません
- 主なはんだ付け部に無鉛はんだを使用
- キャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません
- システムの本体キャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません
- スピーカー外装に非塩ビ系素材を使用

用語解説

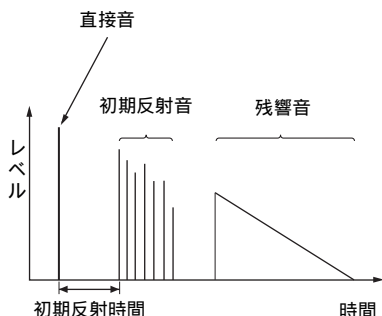
サラウンドサウンド

直接音、初期反射音および残響音の3要素で構成されているサラウンドです。音を聞いている場所の音響効果は、この3つの音の要素の聞こえかたによります。これらの音の要素で、コンサートホールの広さや環境を実際に感じることができます。

音の種別



リアスピーカーからのサウンドの遷移



デジタルシネマサウンド

映画館での迫力あるサウンドを家庭で楽しんでいただくために、ソニーがデジタル信号処理技術を駆使して開発したサラウンドサウンドの総称です。音楽演奏用の空間をベースにした従来の音場再現と違い、あくまで映画を楽しむために開発されました。

ドルビーデジタル

ドルビープロロジックをさらに発展させ劇場用に開発された映画の音のフォーマットです。サラウンド出力をステレオ化した上で周

波数帯域を拡大、さらに低域を受け持つサブウーファー出力も独立して設けてあります(サブウーファーの出力は重低音効果が必要などきだけ動作するので0.1 chと数えられるため、「5.1 ch」と呼ばれます)。あらかじめ5.1チャンネルが分離された状態で記録されており、チャンネル間のセパレーションも良好です。さらにすべての音がデジタル信号で処理されるので、劣化しにくいという特長を持っています。

ドルビープロロジック(II)

2チャンネルに記録されている音源をマルチリックス方式によりマルチチャンネル化させる技術です。

- DOLBY PL (ドルビープロロジック)
フロント、センターの再生帯域は20～20KHz。サラウンドチャンネルはモノラルで再生帯域は100～7KHzの4チャンネル構成です。正しいサラウンド効果を得るためにはドルビーサラウンドエンコードされた音源が前提です。
- PLII MOVIE (ドルビープロロジックIIムービー)
あらゆるステレオ音源を5.1チャンネルに拡張再生します。映画音声の再生に適した定位感をもつように設定されており、サラウンドチャンネルのステレオ化をふくめ、全チャンネル20～20KHzの広帯域となっています。
- PLII MUSIC (ドルビープロロジックIIミュージック)
音楽再生に適した5.1チャンネル拡張再生で、サラウンドチャンネルは定位感よりも包囲感が得られるよう設定されています。サラウンドチャンネルのステレオ化をふくめ、全チャンネル20～20KHzの広帯域となっています。

AAC

MPEG-2 AAC (Advanced Audio Coding) はMPEG (Moving Picture Experts Group) が開発した、MPEG-2オーディオ標準方式の中の一つで、マルチチャンネル音声再生を可能とするフォーマットです。

高音質・高圧縮率を両立することができ、特に低ビットレート（高圧縮率）の環境では、ドルビーデジタルやMP3（MPEG Layer-3）など、従来のフォーマットに比べて高い音質を維持することができます。

わずか96 kbpsという低ビットレートで、CD並みといわれる高品質のステレオ音声を伝送することができるこの音声符号化規格は、2000年の年末に始まったBSデジタル放送で採用されています。

各部の名前と参照ページ

このページの使いかた

本書で説明しているボタンなどの場所が分からないときに、このページで見つけることができます。

イラストの番号

DISPLAY POSITION **3** (18)

↑
ボタンなどの名前

↑
参照ページ

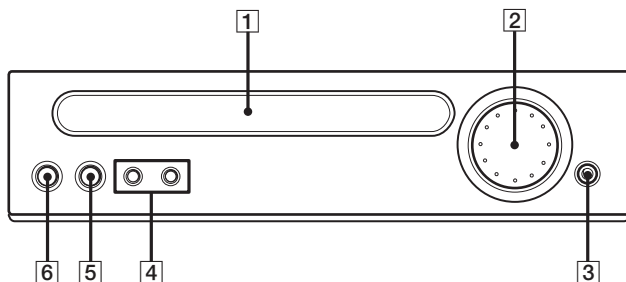
前面

アルファベット/数字順

INPUT SELECTOR **5** (14、15)
MASTER VOLUME **2** (14、24)
PHONES端子 **3**
SOUND FIELD </> **4** (16)

五十音順/記号

表示窓 **1** (15)
I/⏻ (電源) **6** (12)



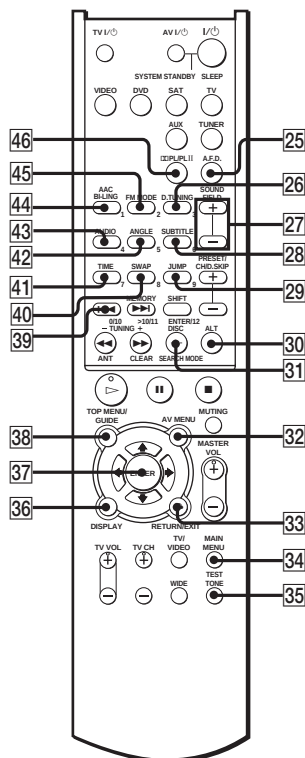
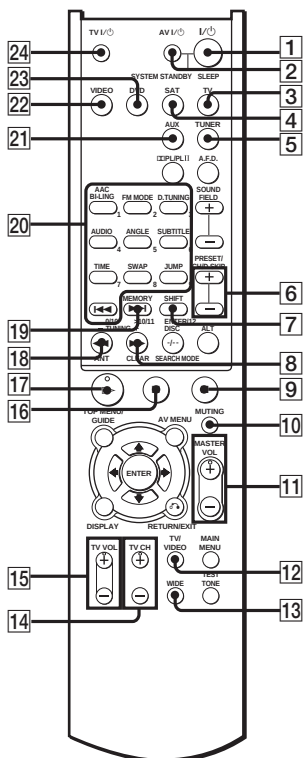
リモコン

アルファベット/数字順

A.F.D. [25] (17)
 AAC BI-LING [44] (19)
 ALT [30] (19)
 ANGLE [42]
 ANT [18]
 AUDIO [43]
 AUX [21] (14、22)
 AV I/⏻ [2] (23)
 AV MENU [32]
 CLEAR [8]
 D.TUNING [26]
 DISC [31]
 DISPLAY [36]
 DVD [23] (14、22)
 ENTER/12 [7]
 FM MODE [45]
 JUMP [29]
 MAIN MENU [34] (18、23、24)
 MASTER VOL +/- [11] (13、14、23、24)
 MEMORY [19]
 MUTING [10] (14)
 DPL/PLII [46] (17)
 PRESET/CH/D.SKIP +/- [6]
 RETURN ↶/EXIT [33]
 SAT [4] (14、22)
 SEARCH MODE [31]
 SHIFT [7]
 SLEEP [1] (19)
 SOUND FIELD +/- [27] (16)
 SUBTITLE [28]
 SWAP [40]
 TEST TONE [35] (13、24)
 TIME [41]
 TOP MENU/GUIDE [38]
 TUNER [5] (22)
 TUNING + [8]
 TUNING - [18]
 TV [3] (14、22、23)
 TV CH +/- [14]
 TV VOL +/- [15]
 TV/VIDEO [12]
 TV I/⏻ (電源) [24]
 VIDEO [22] (14、22、23)
 WIDE [13]
 0/10 [39] (22)

五十音順/記号

数字ボタン [20] (23)
 I/⏻ (電源) [1] (23)
 ⏻/⏻/⏻/ENTER [37] (18、23、24)
 ▶▶ [8]
 ◀◀ [18]
 ▶▶ [19]
 ◀◀ [39]
 ▶ [17]
 ◀ [16]
 ■ [9]
 -/-- [31]
 >10/11 [19]



索引

さ行

サウンドフィールド

効果を調節する 24

選択する 16

プログラムされているサ

ウンドフィールド 16

初期設定 12

スピーカー

音量の調節 13、24

距離の調節 23

接続 9

設置 8

スリープタイマー 19

選択する

機器 14

サウンドフィールド 16

A-Z

AAC 19

DCS 16

DOLBY DRC 18

LEVELメニュー 24

SETUPメニュー 23

た行

調節する

スピーカーの音量 13、

24

LEVELパラメーター 24

SETUPパラメーター

23

デジタルシネマサウンド 16

テストトーン 13、24

ドルビープロロジック (II)

17

商品の修理、お取扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

● <http://www.sony.co.jp/SonyDrive/>

お客様ご相談センター

● ナビダイヤル  0570-00-3311

(全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます)

● 携帯電話・PHSでのご利用は... 03-5448-3311

(ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください)

● FAX 0466-31-2595

受付時間 : 月~金 9:00~20:00 土・日・祝日 9:00~17:00

お電話は自動音声応答にてお受けしています。

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

Printed in Malaysia